

## 2. 『交通ネットワークの構築について』

### 令和3年第2回6月議会一般質問 議事録

#### 【1回目】質問

2つ目に、「交通ネットワークの構築について」で御座います。

色々な場面で申し上げておりますが、市民の移動手段の確保は本市の大きな課題であります。

この度、パーソントリップ調査の結果が示され、平日のバス利用の特徴として、利用されていた割合が、全体の1.5%との結果が示されました。

改めて、その目的と、この結果を受けて、どう分析・考察されているのか？お聞かせ下さい。

#### 【1回目】答弁

「パーソントリップ調査」についてのご質問にお答え致します。

パーソントリップ調査は国が概ね10年ごとに実施しており、「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような時間帯に」「どのような交通手段」で移動したかなどを調べるもので、公共交通サービスのあり方などを検討する基礎資料となります。

平成22年に実施した近畿圏の調査における本市の特徴としましては、市域全体での主な移動手段として「自動車」が30%を占めており、大阪府内平均に比べ8%多く、「徒歩」は17%を占め、大阪府平均に比べ4%少ない状況となっております。また、「バス利用」につきましては、大阪府内平均と同様、全体の約1.5%と少なく、自動車への依存度が高い状況となっております。

また、高齢者の移動の特徴として、自転車や徒歩による校区内での移動が多い状況もございます。以上のような特徴を踏まえつつ、市としては、さらなる高齢化を見据えた中での移動支援策とともに、市民の健康増進といったことに対する考え方なども整理し、まちづくりと一体となって公共交通ネットワークの構築について検討していく必要があると認識を致しております。

#### 【2回目】質問

続きまして、2つ目の交通ネットワークの構築について、に移ります。

パーソントリップ調査の目的と、課題認識についてお聞かせ頂きました。

高齢者の足の確保は喫緊の課題であり、早急な対策が必要と認識しております。一方、まちづくりの観点から、移動手段の確保は年齢問わず、全ての市民が快適に利用できる交通環境の整備が必要と考えます。改めて、今後の方向性をどう考えておられるのか？お聞かせ下さい。

#### 【2回目】答弁

高齢者の足の確保については、65歳以上の高齢者を一括りで考えるのではなく、移動支援の必要な方とはどういった方なのか、また、逆に移動支援の必要のない方とはどういった方なのかを明らかにしていくとともに、利用者以外の市民が必要とする公共交通の在り方とはどのようなもののかなど、公共交通の対象とねらいを明確にした上で、本市の施策に公共交通サービスをしっかりと位置付けて参りたいと考えています。

## 2. 『交通ネットワークの構築について』

### 【3回目】質問

公共交通サービスを本市の施策に位置付けて行くとのことですが、先日、市内の路線バスが減便されました。輸送人員が減少しているとはいえ、路線バスは、依然として公共交通の中核を担っていると考えます。

減便されますと、利便性が低下し、更に利用者が減少するといった、負のスパイラルに陥ってしまい、益々、維持存続が難しくなって来ます。

これからは、まちづくりの一環として、地域公共交通のあるべき姿を自治体が明確に示すと共に、自治体とバス事業者が緊密に連携して、地域の足を守っていく取り組みが重要になると考えます。令和4年度には「地域公共交通会議」が運営される予定ですが、どのような内容が議論されるのか？お聞かせ下さい。

### 【3回目】答弁

「地域公共交通会議」は、市が主宰者となり、地域住民やバス事業者など、地域の関係者による合意形成を図る場として、平成18年10月の改正道路運送法に位置づけられております。

同会議で議論される内容につきましては、地域の実情に応じたバス運行形態及び運賃・料金、事業計画などについて議論を行うものであり、本市におきましても、公共交通に係る現状を検証した上で、地域として必要となる公共交通サービスについてのあり方を整理し、議論してまいりたいと考えています。

### 【4回目】質問

是非、しっかりと議論して頂きたいと考えます。

魅力あるまちづくりと、市域全体の利便性向上を中長期的な観点から考えた場合、人が集まる商業施設や病院などの拠点間に加え、地域拠点と居住エリアを結ぶといったネットワーク機能の強化が重要と考えます。

市民の外出機会を創出すると共に、地域拠点への移動をスムーズにすることで、地域活力を向上させる必要があります。

市域全体の交通ネットワーク構築について、今後どのように取り組んで行くのか？お考えをお聞かせ下さい。

### 【4回目】答弁

地域公共交通の維持・改善は、交通分野の課題解決にとどまらず、健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな影響をもたらすものと認識しております。

急激な人口減少や高齢社会、経済情勢の変化を評価・検討していくためには、公共交通ネットワーク単体ではなく、地域全体を見渡したまちづくりと一体となって取り組んでいくことが必要となってまいります。

まちづくりの観点からの快適に生活できる都市環境、都市空間の創出も検討しつつ、まちづくりの考え方とそれに伴う道路整備の在り方とを合わせ中長期的な観点からの検討も必要であると考えています。

## 2. 『交通ネットワークの構築について』

### 【5回目】

お考えを理解しました。

まちづくりの観点から、地域拠点を交通結節点と捉え、多様な交通モードとの連携・接続の強化を図るという視点に立ち、将来を見据えた検討が必要と考えます。

近年、移動手段を確保する為、市街地へもデマンド型交通を導入する自治体が急増しています。

大阪市の生野区や平野区では、本年3月末より、交通の更なる利便性向上を目指し、オンデマンドバスの社会実験が開始されています。

本市は狭隘道路が多いことから、実態に即したデマンド型交通の導入が、市民の移動手段の確保に有効と考えます。是非、ご検討下さい。

交通ネットワークの構築は、来訪者の移動の利便性や回遊性も高め、交流を活発化させ、本市の魅力向上にも貢献するものと考えますので、鋭意、取り組まれることを要望します。